

千葉県議会議員〈我孫子市選出・無所属〉 会派「千翔会」幹事長

水野 ゆうき

千葉県議会報告

ゆう Can Change!

vol.37

ブログ <https://ameblo.jp/yuukimizuno/>

Facebook 水野友貴

twitter @yuukitten

新型コロナウイルス感染によりお亡くなりになられた方々とご親族の皆様に心からお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々にお見舞い申し上げます。そして、最前線で社会維持のために従事されている医療関係者をはじめとする多くのエッセンシャルワーカーの皆様に心より感謝申し上げます。

水野ゆうきは12月定例千葉県議会において一般質問を行い、森田知事に対し新型コロナウイルス感染症対策をはじめとする千葉県及び我孫子市の課題について質疑を行い、改善等を申し入れました。



水野ゆうきの一般質問項目

1. 新型コロナウイルス感染症対策

2. 情報発信のあり方

3. 自殺対策

4. 薬物乱用防止

5. 女性特有の疾病対策

6. コブハクチョウ被害防止対策

7. 道路の交通安全対策

1 新型コロナウイルス感染症対策

◎県民にわかりやすい情報提供を!

新型コロナウイルス感染症に関しては「保健所」が患者・濃厚接触者等の調査や情報収集、疫学調査等を行っています。「保健所」は国の地域保健法により、都道府県・政令指定都市・中核市が設置することができ、千葉県では県・政令指定都市・中核市がそれぞれの権限で保健所を設置しています。つまり、同じ千葉県であっても保健所（設置者）毎に権限を有しているために、保健所設置者により対策や対応、情報提供内容が異なっています。

【千葉県の保健所】

- 千葉県（都道府県）**県内13か所**
※我孫子市は千葉県が所管する松戸保健所
- 千葉市（政令指定都市）**独自設置**
- 柏市（中核市）**独自設置**
- 船橋市（中核市）**独自設置**

【保健所縛りの問題点】

4保健所設置者それぞれが権限を持っているため、同じ千葉県・千葉県民であるにも関わらず、それぞれの考えの元に対応・公表している。そのため検査方法や情報発表内容が統一されておらず、公表内容や発信方法も異なる。

【水野ゆうきの一般質問での指摘と要望】

- 公表内容は県民にわかりやすくするために、千葉県は保健所独自設置市3市と連携するべき!
- 公表内容等は統一するべき!
例) 千葉県はクラスター発生の際に施設名公表するが、公表しない保健所設置市もある。
逆に、千葉県とは異なり、行動履歴を詳細に公表する保健所設置市もある。
- 新型コロナウイルス感染症情報はホームページに掲載するだけでなくSNSで積極的に対策等も発信することは行政の責務である!

【保健所主軸のわかりにくさの例】

- 県立学校で感染者が確認された場合、県立であっても必ずしも千葉県が調査・発表をするわけではない
- その県立学校が立地している場所が保健所設置市の管内であれば、事案の発表や濃厚接触者の調査は、県ではなくその市が行う
- 一方で、その県立学校に通う生徒の住所が千葉県管轄の保健所であれば、千葉県が患者調査や検査を行い、検査の結果が陽性であれば千葉県が発表
- 同じ県立学校で発生している事案であっても、住んでいる場所によって発表自治体や発表内容が異なり、事案の実態が見えにくく保護者等にとって非常に複雑な仕組み

◎新型コロナウイルス感染症本部事務局体制強化を!

千葉県は令和2年4月6日に86名の体制で新型コロナウイルス対策本部事務局を発足。最大時には175名体制に。しかし、第1波終了後の7月に組織体制を見直し、本部事務局の人員を139名から107名体制に再編成。明らかにマンパワー不足です。

【水野ゆうきの質問と要望】

保健所における感染症対策を担当している健康福祉部疾病対策課では時間外勤務時間が他の課より多く、10月以降クラスターが続出し、新規患者数も急増。第3波は第1波を超える勢いであり、今後も新規患者数が増えることも想定されることから、それに対応する本部事務局の職員も増やす必要がある。

【森田知事答弁】

最近の患者数の増加に伴い、本部事務局においても業務が増えてきていることから、更なる人員体制の強化について検討する。

◎要請と補償はセットにすべきである!

千葉県は我孫子市を含む東葛地域11市の飲食店などに12月2日～22日までの間、酒類提供を午後10時までと要請。しかし、協力金等の支給がなかったことから「要請を行う場合は補償をセットにすべき!」と議場で訴えました。

新たに千葉県が東葛地域及び千葉市で酒類を提供する飲食店(カラオケ店を含む)に対し行った営業時間の短縮要請(令和2年12月23日～令和3年1月11日)では、ご協力いただいた事業者(個人事業主含)に一律80万円(1日4万円)を協力金として支給する運びとなりました。

2 情報発信のあり方

◎緊急時やコロナ関連情報はSNSを利活用しプッシュ型広報を！

災害時等において公的な情報ニーズが急激に高まるために、公的機関ではそれに対応した情報発信が求められます。現在、千葉県ではネットにおいてはホームページを軸とした情報発信を行っています。全国47都道府県庁の「オンライン広報」に関して格差があることが指摘されています。

【水野ゆうきが指摘する千葉県の問題点】

緊急時などアクセス集中時に情報閲覧を可能にするために**ホームページを災害版HPに切り替える**ことや速報性や拡散力の観点で最も影響があるツイッターの利活用が有効であると言われていますが、**緊急事態宣言が全国に拡大された4月時点ではホームページを災害版に切り替えているのは8府県にとどまり、千葉県を含む5県にはツイッターの広報公式アカウントすら開設されておりません。**

千葉県は広報公式アカウントを開設していないにも関わらず、11月末時点で**各担当部署毎になんと70ものSNSアカウント**を開設。しかも70ものアカウントを開設しても**新型コロナウイルス感染症新規感染者数等の情報を発信しているアカウントはゼロ！**
アカウント数が多すぎて千葉県として今一番発信したいこと、県民に周知すべきことが見えにくい。

【水野ゆうきの質問】

- (1) 緊急時などでも安定的に県ホームページを運用していくための取組は？
- (2) 今年11月に実施した県ホームページのリニューアルでは、緊急時における情報発信のためにどのように改善したのか？
- (3) 災害時や新型コロナウイルス感染症という大きな関心事に関しては、県民にすみやかに実情を伝えていくことは行政の重要な役割のひとつである。他都府県や千葉県内の独自保健所設置市（千葉市など）では、首長や行政がSNSを利活用して新型コロナウイルス感染症関連情報を発信している一方で、千葉県はホームページのみ。SNSを活用し、プッシュ型の広報をすべきと思うがどうか？

【総合企画部長答弁】

- (1) 大規模災害時等の緊急時には安定した情報発信ができなくなる可能性があるため、アクセスが集中した場合でも障害が発生しないように文字情報中心にしたページに切り替えるシステムを整備。
- (2) リニューアルでは災害時など緊急事案のレベルに応じて「緊急情報」が

画面上に目立つようにページ構成を変更するシステムを整備。機械翻訳機能によりすべてのページが8つの言語で閲覧可能となり、外国人の方々が緊急情報にアクセスしやすくなった。

- (3) SNSを活用した広報は、若い世代を中心に幅広い世代に効果があり、広報手段としても大変有効であると認識している。部局間で連携を図りながら効果的な情報発信が図られるよう努める。

【水野ゆうきの主張と要望】

- どれだけ多くのSNSアカウントを開設してもコロナ関連情報はどのアカウントでも出しておらず、SNSの効果を駆使できていない。緊急性のある内容や県民が知るべきタイムリーな情報こそ、SNSを利活用して積極的に情報提供に努めるべき。
- ネットのトレンドもしっかりと把握し、緊急情報やコロナ関連情報等に関してはホームページのみならず、多くの県民にタイムリーに行き渡るようプッシュ型広報を要望する。

3 自殺対策

◎若者と女性の自殺者急増、対策急務！

千葉県内の自殺者数は7月から10月は4か月連続で前年同月を上回り、この4か月の合計は過去5年で最多となりました。**令和2年1月から10月までの自殺者数は844人と深刻な状況**です。

特に顕著となっているのは**女性や若者の自殺者数が急増**していることです。厚生労働省によると**女性の20代と40代が去年の同じ時期より2倍以上に増えています**。千葉県においても若年層の死因に占める自殺の割合が高いことから、若者の自殺対策を進めていくことは重要です。

【千葉県における1月から10月までの年齢別自殺者数】

- 20歳未満 …… 35人
- 20代 …… 89人
- 30代 …… 101人
- 40代 …… 140人
- 50代 …… 148人
- 60代 …… 128人
- 70代 …… 114人
- 80歳以上 …… 89人
- 合計 844名（男性 544人 女性 300人）

水野ゆうきは児童生徒と若者向けに県の自殺対策における相談窓口の周知・啓発方法の取り組みについて質疑を行い、SNSの広告活用と命の教育を疎かにすることないよう要望を行いました。



【千葉県における児童生徒の自殺の推移】

年度	小学校(人)	中学校(人)	高等学校(人)	合計(人)
平成27年度	0	4	4	8
平成28年度	0	2	6	8
平成29年度	1	6	6	13
平成30年度	0	8	14	22
令和元年度	1	3	9	13

千葉県の対策と実績（知事部局）

- 若者の利用が多いインターネット上の検索サイトにおいて自殺関連キーワードの用語検索（例：「死にたい」「自殺」等）を行うと検索結果の上位に相談窓口のリンク先が表示される「**検索連動型広告**」の取り組みを開始。今年度10月末現在では約50万4千件余りの広告表示があり、そのうち相談窓口等を案内した件数が約1万9千件。

千葉県の対策と実績（県教育委員会）

- 新型コロナウイルス感染症に係る学校生活の変化や芸能人の相次ぐ自殺報道により児童生徒への影響が懸念されることから、繰り返し通知を发出し各学校に見守りの強化等を求めた。
- 「**SOSの出し方教育**」として県教育委員会が配布したDVDを活用して指導するよう依頼。
- **SNSを活用した相談窓口を通年で開設し（水野ゆうきの要望実現）、生徒の不安や悩みを受け止めながら学校や医療機関などへの相談を促し、継続的な支援体制につなげている。**11月末現在、「心身の健康」、「友人関係」、「学業・進路」など全体での**べ3,297件の相談があり、そのうち「死にたい」などの訴えがあったものが95人からのべ250件**あった。

4 薬物乱用防止

◎未成年の大麻乱用増加を防げ！

全国の覚せい剤とコカインの押収量は平成以降最多を記録したほか、大麻の所持などで検挙された人が6年連続で増加し、統計がある1971年以降で最多の4,570人でした。このうち、未成年を含む20代以下が半数以上を占めるなど、近年若者を中心に急増。一方で事犯別にみると覚せい剤より大麻が増えてきています。

その背景には大麻はネットを通じて他の薬物よりも入手しやすく、その及ぼす影響が過小評価され安易に使用している可能性があるとの分析・指摘されています。

【千葉県の実況】

- 薬物事犯全体の検挙件数は800～900件台、検挙人員600～700人台と近年横ばいで推移
- 事犯別内訳では覚せい剤事犯が7割を占めているものの、年々覚せい剤事犯の割合が減少し、大麻事犯の割合が増加
- 大麻事犯の年齢別検挙状況は令和元年の数値で20代が63人で最も多く、全体の43%を占めており、若者による大麻の乱用が増加**

《千葉県の少年の薬物事犯》

- 令和元年中に薬物事犯で検挙した少年は21人であり、一昨年と比較して2人増加。
- 本年11月末現在の検挙人員は26人で前年同期と比較して14人増加。

《千葉県の少年の大麻事犯》

- 本年11月末現在、薬物事犯で検挙した少年は24人。**既に昨年を超え、大麻による少年の検挙人員が年々増加**。未成年者に大麻の乱用が広がっている。

【水野ゆうきの要望】

- 大麻急増は「**ネット**」と「**若者**」がキーワードになっている。自殺対策同様、薬物乱用に関してもSNSを活用した啓発活動を視野にいれるよう要望する。
- あらゆる機会を捉えて児童生徒に薬物乱用防止について指導するよう要望する。



※昨年度、我孫子市立根戸小学校にて

水野ゆうきは薬物乱用防止教室の認定講師として、所属する我孫子ライオンズクラブのメンバーとともに、これまで我孫子市内の小学校を中心に薬物乱用防止教室を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染症により中止しています。

5 女性特有の疾病対策

◎コロナ禍の受診控え対策を！ 早期発見・早期治療に遅れ

「女性特有の病気」は厚生労働省の調査によれば、全国に129万6千人の患者がいると言われています。さらに特徴的なのは若い20代・30代でも発症する確率が高いということです。

検診を受けることで、一人でも多くの女性が早期発見・早期治療につながりますように、という強い想いで質問しました。

【女性特有のがんの罹患数】（※最新調査 平成29年度）

	日本	千葉県
乳がん	91,605人	4,574人
子宮がん(頸がん・体がん含む)	28,183人	1,373人
卵巣がん	13,345人	624人
合計	133,133人	6,571人

女性特有のがんによる全国の死亡数は令和元年は26,376人、その中で15歳から39歳のAYA世代は520名。千葉県における女性特有のがんによる死亡数(令和元年)は、乳がんは735人、子宮がんは360人、卵巣がんは255人の、合わせて1,350人となっており、いずれも前年と比べて増加。

また、我が国における子宮頸がんの年間罹患数は約1万1,000例、年間死亡者数は約3,000人で、女性特有のがんの中では乳がんに次いで多く、20代から30代の罹患率はすべてのがんの中で第1位です。日本における検診の割合は40%台前半と低く、欧米諸国では70%～80%に上っており、日本の受診率の低さは際立っています。

【水野ゆうきの質問】

がん検診受診率を向上させるための県の取組と新型コロナウイルス感染症の影響によるがん検診の受診控えに対する千葉県の対応は？

【健康福祉部長答弁】

- 県では、市町村の担当職員に向けた研修を実施し、効果的な受診勧奨や先進的な取組の事例紹介を行うとともに、市町村の保健推進員や食生活改善推進員等のがん検診推進員として育成し、地域において検診の呼びかけを行っている。
- がん予防展や講演会、ピンクリボンキャンペーンのほか、今年度新たに、新成人に対し、がん検診の啓発リーフレットを作成し配布することとした。
- 新型コロナウイルス感染症の感染を心配するあまり、がん検診を控えたり、がん検診を見送ることがないよう、県ホームページを通じて呼びかけている。

【水野ゆうきの情報提供体制及び広報に対する改善要望】

「自殺対策」「薬物乱用防止」「女性特有の疾病対策」には若い世代、女性、ネットという特徴があります。広報や啓発、情報提供に関してはどの対象者に向けてアプローチするかで効果も全く異なります。内容に応じてしかるべき対象者に届くよう、時代の流れにアンテナをはって、あらゆるツールを駆使して多くの県民に情報がタイムリーに的確に行き渡るよう要望する。



「県を動かす我孫子市に！」千葉県から我孫子市をバックアップし、我孫子市のために奔走します。

6 手賀沼に生息するコブハクチョウの稲被害防止対策

◎深刻な農作物被害に千葉県が主体的に対策を講じるべき！

千葉県が2020年2月に行った手賀沼に生息する外来種であるコブハクチョウの観察個体数は**168羽**で、特に印西市の発作橋付近では、114羽確認され、その他少数個体が広範囲で生息しています。また、定期的に給餌が行われており、人による給餌により個体数が増えて生態系への影響が出ることも懸念されます。

我孫子市における被害面積

平成30年度 10a

令和元年度 32a

特にここ2～3年は農家からの被害報告が非常に多い状況です。コブハクチョウは稲の上っ面や稲自体を食害し、実のついた稲穂を食害することにより被害が出ています。

令和2年度調査中ですが、昨年より圃場への侵入箇所が広範囲のため被害が深刻になることも懸念されます。

我孫子市では市職員が連日ロープ等で圃場から追い出したり防鳥ネットを設置するなど様々な対策を実施しているものの農作物被害の抑制には至っていません。

【水野ゆうきの質問】

我孫子市と同様の被害を受けている柏市、印西市、白井市を含む手賀沼周辺4市においてコブハクチョウが生息する手賀沼を管理する千葉県に対し、被害状況や各市の対応状況を踏まえ総合的な対策を要請し、県と4市で協議を重ねているが決定的な対応策は出ていない。

手賀沼周辺に生息するコブハクチョウによる農業被害の防止に向けて、県は、手賀沼周辺の四市とともに、どのように取り組んでいるのか。

【環境生活部長答弁】

●手賀沼周辺の柏市・我孫子市・印西市・白井市との打合せの場を設置し、農業被害への対策について検討を進めている。

●2回の生息状況調査や国及び有識者からのヒアリング、県内外の自治体における対策事例の調査などを行うとともに、水田からの追払い等の対策にあたり市からの捕獲申請に対して許可を行うなどの対応を行っているところ。

●4市の意向を聞きながら、より効果的な対策の実施について協議するなど、円滑に農業被害対策が進むよう連携して取り組んでいく。

【水野ゆうきの要望】

市単独で対策を講じていても、対処療法に過ぎない。手賀沼を維持管理する県と被害を受けている手賀沼周辺4市が連携して対策していく必要がある。**今後は手賀沼4市としっかりと連携して県が主体的に取り組むことを強く要望する！**

7 道路の交通安全対策

◎横断歩道や「止まれ」等の路面標示の塗り直しは早急に！

千葉県内における令和元年の交通事故発生件数は16,476件で全国ワースト9位という状況です。

交通事故の主な発生区分は交差点が44%で7,221件。交差点付近まで含めると約60%の10,239件となります。特に高齢者の交通事故では、死亡者数172人のうち52%にあたる90人が65歳以上と約半数を占めており、高齢者が関わる死亡事故を防ぐための交通安全対策が重要な課題です。

すでに設置されている横断歩道や「止まれ」等の路面標示が消えかかっていることによって運転手への注意喚起の効果が薄れているとの声もあり、県内のいたるところに塗り直しが必要となっている横断歩道や路面標示が見受けられ、大変危険です。県警本部に対し、早期解消を求め、必要な整備・適切な維持管理を要望しました。

【令和元年度中の横断歩道の補修実績】

平成30年度中に実施した県下全横断歩道の一斉点検結果を基に抽出した早急に補修が必要と認める箇所については補修を終了しており、令和元年度中は約2,400箇所の横断歩道を補修済。

摩耗は日々進行することから、引き続き摩耗状況の把握に努めながら、横断歩道の維持管理に努める。

【水野ゆうきからのお知らせ】

- 千葉県議会議員は新型コロナウイルス感染症の厳しい情勢を鑑み、令和2年8月から令和3年3月までの8か月間、県議一人あたり報酬月額8万8千円(合計70万4千円)削減しております。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために不特定多数と接する駅頭等は控えております。

2021年（令和3年）3月は千葉県知事選挙です！



森田健作知事が不出馬を表明した任期満了に伴う千葉県知事選挙が令和3年3月〈告示日3月4日(木)、選挙期日3月21日(日)〉に行われます。

水野ゆうきは無所属の同志であり、市町村との対話を大切にする現場主義の**熊谷俊人氏(現千葉市長)**とともに新しい是々非々の千葉県政を目指します。

地方政治は政党政治ではありません。千葉県民の貴重な1票が千葉県政を変えます。



県の課題について水野ゆうきとともに我孫子市民と対話

水野ゆうき 主な役職

- 千葉県議会議員（無所属系会派「千翔会」幹事長）県土整備常任委員会 委員
千葉県議会フリースクール等教育機会確保議員連盟 幹事／千葉県議会スポーツ振興議員連盟 幹事／千葉県議会地震・津波対策議員連盟 幹事／千葉県議会空き家・空き地対策推進議員連盟／千葉県観光立県推進議員連盟／千葉県議会拉致問題早期解決の支援に関する議員連盟
- 千葉県立我孫子・湖北特別支援学校後援会顧問、手賀沼水環境保全協議会顧問、一般国道356号整備促進期成同盟顧問、千葉県環境審議会（水環境部門）委員、松戸健康福祉センター運営協議会委員、我孫子ライオンズクラブ前会長 など



水野ゆうき プロフィール

1983年2月19日生の37歳。我孫子市生まれ・育ち・在住。我孫子市立第四小学校入学、米国ロサンゼルス現地校編入、ロサンゼルスインターナショナルスクール編入、帰国後は茨城県私立茗溪学園中学校編入、同校高校卒。津田塾大学学芸学部国際関係学科卒。東証一部上場物流会社に入社し約3年間役員秘書として勤務後、民放テレビ局勤務（BS フジ『PRIME NEWS』担当）。2011年我孫子市議会議員選挙当選。2015年千葉県議会議員選挙当選。2019年千葉県議会議員選挙2期目トップ当選。

水野ゆうきへのご意見・応援メッセージは
公式ホームページまで

<https://mizunoyuuki.com/>

